

培土と適期防除、畦間かん水の実施を！

- ・培土作業が遅れ、排水不良や雑草の発生などにより、収量や品質の低下が懸念されます。2回の培土を行っていないほ場では、早急に実施しましょう。
- ・早めの雑草対策と適期の病虫害防除に努めましょう。
- ・莢数及び収量を確保するため、開花期から9月上旬までは畦間かん水を行いましょう。

1 培土・排水対策の実施

- ・2回の培土を実施していないほ場は、早急に実施しましょう。
- ・培土後にできた溝を、額縁排水溝及び掘り下げた排水口と確実に連結してください。

2 雑草対策・病虫害防除

<雑草対策>

雑草の発生が多い場合は、雑草の種類や大きさに応じて除草剤を散布しましょう。

<病虫害防除>

基本防除を徹底しましょう。

散布に際しては、莢や葉の裏にも薬剤がかかるよう、風の無い朝夕に防除を実施してください。

- ・葉に害虫の被害が見られたら、速やかに随時防除を行いましょう。(右写真)



被害例：ウコンノメイガの葉巻

防除の目安：7月下旬

葉巻6個以上/本

雑草対策、病虫害防除の詳細は裏面をご覧ください。

3 干ばつ防止対策

- ・平年よりも早く7月9日に梅雨明けが発表され、今後高温や少雨が予想されます。7月中旬～9月上旬は、開花して莢が伸長し、豆が肥大するために最も水分が必要な時期です。
- ・晴天日が続いたら(4～5日程度)、早めに畦間かん水を行いましょう。なお、かん水は短時間で行い、ほ場全体に行き渡ったら速やかに排水してください。

【雑草対策】

雑草の種類など	農薬名	散布方法	10a 当たり散布量等
イネ科雑草 3～10 葉期まで (広葉雑草に効果はない)	ポルトフロアブル	雑草茎葉 散布	200～300ml を水 100 ℓ で希釈する 収穫 30 日前まで、散布は 1 回のみ
畑地一年生雑草 6 葉期まで (イネ科雑草に効果はない)	大豆バサグラン液剤		100～150ml を水 100 ℓ で希釈する 収穫 45 日前まで、散布は 1 回のみ
雑草全般	バスタ液剤	畝間処理	500ml を水 100ℓ で希釈する 大豆にかからないよう注意

注)大豆バサグラン液剤の使用時期は、登録上で開花前(7月20日頃)までとなっていますので、注意してください。

【病害虫防除】

《粉剤体系の場合》

	病害虫の種類	薬剤名	散布時期	10a 当り散布量
基本防除	〔1回目〕 紫斑病 カメムシ類、マメシクイガ	スミチオンベルコート 粉剤 DL	莢が伸びきった頃 (8月上旬) 収穫 21 日前まで	3 kg
	〔2回目〕 紫斑病 カメムシ類	マネージトレボン 粉剤 DL	豆が肥大した頃 (8月下旬) 収穫 30 日前まで	4 kg
随時防除 (発生時)	ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤	葉巻きが見られ始めたら (7月下旬～8月上旬頃) 収穫 7 日前まで	4 kg
	アブラムシ類、カメムシ類 フタスジヒメハムシ、 マメシクイガ	ダントツ H 粉剤 DL	葉や莢に食害が見られたら (9月上旬頃) 収穫 7 日前まで	3～4 kg
	マメシクイガ ハスモンヨトウ等	トレボン粉剤 DL	(8月下旬～9月中旬頃) 収穫 14 日前まで	4 kg

《液剤体系の場合》

	病害虫の種類	薬剤名	希釈倍率	散布時期	10a 当り散布量
基本防除	〔1回目〕 紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	ベルコートフロアブル (収穫 7 日前まで)	1,000 倍	莢が伸びきった頃 (8月上旬)	150ℓ
		ダントツフロアブル (収穫 7 日前まで)	2,500 倍		
	〔2回目〕 紫斑病 カメムシ類	アミスター20フロアブル (収穫 7 日前まで)	2,000 倍	豆が肥大した頃 (8月下旬)	150ℓ
		トレボン乳剤 (収穫 14 日前まで)	1,000 倍		
随時防除 (発生時)	ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤 (収穫 7 日前まで)		葉巻きが見られ始めたら (7月下旬～8月上旬頃)	4 kg
	アブラムシ類、カメムシ類 フタスジヒメハムシ マメシクイガ	ダントツフロアブル (収穫 7 日前まで) 散布 3 回まで	2,500 倍	葉や莢に食害が 見られたら (9月上旬頃)	150ℓ
	マメシクイガ ハスモンヨトウ等	トレボン乳剤 (収穫 14 日前まで)	1,000 倍	(8月下旬～ 9月中旬頃)	150ℓ

注)基本防除剤は、大豆栽培面積に合わせ数量を配布します。(薬剤は、高岡地域農業共済組合より一部助成)

JA栽培管理記録とGAPチェックシートを記入しましょう!

【問い合わせは JA いみず野本店第2事務所営農施設課 TEL52-6805 高岡農林振興センター農業普及第二課射水班 TEL26-8478 】